



よしだ ちあき	
吉田 千秋	
区 分	鉄道事業者関係
居 住 地	茨城県
所属・役職	ひたちなか海浜鉄道株式会社 代表取締役社長

相談方法・連絡先	
相談方法	メール及び電話
相談可能日時	随時(勤務時間8:30~18:10)・土休日を除く
電話番号	029-212-8023
メールアドレス	yoshida@hitachinaka-rail.co.jp

取組の概要
・駅構内で地域の保育園児の演奏会や地元野菜の直売会実施など、地域に親しまれる「市民鉄道」として数多くの取組みを通じ、鉄道を核とした湊線沿線の新たな魅力づくりと、情報の発信を行っている。 ・前例にとらわれない柔軟な発想で沿線の観光施設や旅行業者と積極的に連携を図り、鉄道利用者の増加に取り組んでいる。 ・地域住民と一体となって「鉄道を中心としたまちづくり」に取り組んでいる。

本人の言葉
ローカル線と地域の活性化は一心同体。 鉄道の持つ「人をひきつける魅力」をうまく生かし、沿線の人たちと力を合わせれば、ローカル線はそれのみではなく地域活性化の重要なアイテムとして機能し、かかわった人みんなが幸せになると信じています。

略歴等

- 昭和63年 4月 富山地方鉄道(株)入社
- 平成 6年 4月 関連会社加越能鉄道へ出向
- 平成13年10月 第三セクター万葉線(株)発足に伴い同社へ移籍
- 平成20年 4月 公募によりひたちなか海浜鉄道(株)代表取締役社長就任、現在にいたる。

取組の内容、特徴

➤地域住民や自治会、地元の商工会議所などと積極的に連携しながら、沿線の観光施設とのタイアップや割引率の高い年間通学定期の発売、また、旅行ツアーで湊線乗車を組み込むために旅行業者へトップセールスを行うなど、さまざまなアイデアや取組みにより、収支の改善と、利用者数の増加に大きな成果をあげている。

【湊線利用者数】

H20年度754,863人⇒H21年度773,804人⇒H22年度786,172人

➤「鉄道を中心としたまちづくり」という公共的視点から会社経営を行っている。地域住民の理解と行動に支えられた元気なローカル鉄道の経営者として注目を集めている。

取組への意欲、取組における役割

➤万葉線を第三セクター方式で設立運営に携わった知識や経験、数多くの人脈を活かし、旅行プランの誘導や新しい企画に精力的に取り組んでいる。

➤前例にとらわれない柔軟で前向きな発想で、沿線の観光施設や旅行業者などとも積極的に連携を図っている。

➤湊線の利用促進活動などを通じて地域住民と交流を深め、地域と一体となったさまざまな活動を展開している。駅構内において、地域の保育園児の演奏会や地元野菜の直売会を実施するなど地域に親しまれる「市民鉄道」としての数多くの取組みを通じて、鉄道を核とした湊線沿線の新たな魅力を見だし、発信する役割も担っている。

取組の成果、地域への貢献度

➤商店街と連携したキャンペーンなど地域と一体となった利用促進策の推進により、地域経済の振興が図られている。また、住民の生活路線や沿線高校生の通学手段としての利用だけでなく、イベントや観光地との連携などにより、外部からの観光客の利用も増えている。

➤最近では映画のロケやCMの舞台となったり、鉄道ファンが訪れるなど、鉄道そのものが観光資源として活用されており、海浜鉄道の取組みがまちの活性化とひたちなか市の知名度アップに大きく貢献している。

先達としての実績

➤公共交通に関する講演会やセミナーに数多く出席依頼があり、実績に裏付けられた多数のアイデアやノウハウを展開する活動を行っている。
➤マスコミや情報誌にも数多く取り上げられ、知識や経験を具体的な活動につなげる熱意と責任感を持ちながら、親しみやすい人柄で、公共交通の将来を担う人材である。

➤最近の講演

- ・H23. 12. 3 中小企業診断協会
- ・H23. 1. 25 水戸ロータリークラブ
- ・H22. 10. 30 山形鉄道大学セミナートレイン
- ・H22. 6. 12 地域鉄道フォーラム 公募社長サミットin東京
- ・H22. 5. 19 茨城県経営者協会公開セミナー
- ・H21. 11. 7 地域鉄道フォーラム

ひたちなか海浜鉄道(株)の概要

(1) 会社概要 (H 24.3.17現在)

名 称 ひたちなか海浜鉄道株式会社
所 在 地 茨城県ひたちなか市釈迦町22-2
代 表 者 代表取締役社長 吉田 千秋
資 本 金 17,800万円 (発行済株数 3,560株)
要 員 28名



(2) 鉄道事業概要

営業区間 勝田～阿字ヶ浦 (内燃、14.3キロ)
駅 数 9駅
車 両 数 内燃動車8両
運行回数 上り35本、下り36本、
(休日上り29本、下り30本)



マイスターの主な取り組み及び成果

(1) 吉田千秋氏の主な取り組み

①地域との連携強化

地元市民、商工会等で組織された「おらが湊鐵道応援団」や自治体等と連携し、鉄道の利用促進とまちの活性化を一体的に推進。

例) 湊線乗車特典サービス、市民による駅での観光案内等

②鉄道利用促進方策の展開

割引率の高い年間通学定期券の設定、沿線観光施設(ひたち海浜公園等)と連携した企画乗車券の発売、自ら旅行会社に働きかけ、湊線を組み込んだ旅行商品の発売等を実施。

③精力的な広報活動

ひたちなか市報や自社のホームページ等を活用し、お得な情報やイベント情報を提供。

また、茨城県経営者協会主催のセミナーや、交通環境整備ネットワーク主催のフォーラムなど、講演活動も積極的に実施。



①湊線乗車特典サービス



①観光案内用マップ



②海浜公園入場券セットクーポン

(2) 取り組みの成果

格安な年間通学定期の発売、沿線観光施設との連携、「おらが湊鐵道応援団」の協力を得た乗車特典サービスの展開等、鉄道とまちが一体となった活性化策を推進したことにより、ひたちなか海浜鉄道誕生(H20.4.1)後、定期、定期外旅客とも年々利用者が増加している。



③フォーラムポスター